

APシンポジウム 反転授業 実践報告

平成26年12月28日(水)

10:15~11:45(1時間30分)

徳島大学常三島キャンパス 5号館302・303講義室

総合教育センターICT活用教育部門

プログラム(予定)

- 10:15～10:25(10分) 挨拶、趣旨説明、実践者紹介
 - 総合教育センターICT活用教育部門長 金西計英
 - <実践者>
 - 徳島大学工学部 芥川正武先生
 - 総合教育センター 金西計英先生
 - 徳島大学歯学部 大倉一夫先生
 - 徳島大学医学部 南川貴子先生
 - 徳島大学工学部 森賀俊広先生(ポスターのみ・登壇なし)
 - 徳島大学工学部 武藤 裕則先生(ポスターのみ・登壇なし)
- 10:25～11:00(35分) **ポスターセッション**
(11:00-11:05 入れ替え・着席)
- 10:05～11:15(10分) 指定討論 広島大学大学院 古澤修一 先生
- 11:15～11:45(30分) 質疑応答(パネルディスカッション)
- コーディネーター: 金西計英、パネラー: 実践者の先生方

質疑応答

- ビデオや資料の作成はどのようにしているのか？
 - Keynoteでプレゼンを作り、スライドをめくりながら音声を録音。作成したものを動画ファイルで書き出し、YouTubeへアップロード。YouTubeで字幕を付けるなどの編集機能がある。資料は30～40ページぐらいの冊子を作って置き、すべての内容を載せている。資料を見ながら動画を見てもらう。資料はPDFで配布（以前は印刷配布）。自分で印刷してくる学生もいる。（芥川）
 - 昨年度まではPowerPointの資料のみ。今年から10分程度のビデオを作成。（大倉）
 - 文芸春秋社発行の手記、新聞等を資料とした。（南川）
 - ビデオはWebカメラとキャプチャーソフトで作成。（金西）
- 評価はどうされているか？
 - ビデオの後に確認問題がある。確認問題＋演習後に成果物（マイコンを使った工作物）を評価。学生1人ずつ個別評価している。（芥川）
 - 国家試験と同じ形の期末試験＋実習の制作物（ブリッジなど）の評価。（大倉）
 - レポート課題で評価。（南川）
 - 授業中のアクティビティを細かく点数化（50%）。残り50%は期末試験。（金西）

質疑応答

- 事前にどのぐらいのボリュームの教材を置いたらいいでしょうか？
 - 15回すべてビデオコンテンツ。1回2～3個のビデオ。長いと20分、短いと10分。最初はビデオを作りながら講義をやっていたので、ビデオのアップが遅れることもあった。次年度からは部分修正ですんでいる。(古澤)
 - 全体では20分ぐらいの長さを分割。短いと3分、長いと10分。(芥川)
 - ビデオは10分以内。(大倉)
 - 資料なので10ページ程度。(南川)
 - 森賀先生、武藤先生は講義のキャプチャ(90分)を短く編集している。MOOCの調査だと、集中が続くのは6分。(金西)

質疑応答

- 著作権はどう対応しているか？
 - 講義室の中で30名なら紙で配布をしてよいので、ビデオの内容はすべて紙で事前配布。ビデオは著作権上ダメなものは写さず、資料を参照するように促している。広島大学では著作権対応部署がある。(古澤)
 - あるびーの、というコンテンツを使用している。クリエイティブコモンズなので、授業で使用可能。あとは自作なので著作権は問題ない。(芥川)
 - 自作なので問題ない。(大倉)
 - 資料は出版物のコピーを配布。著作権上はグレーな人数(72名)だが…(南川)
 - 紙で物理的に配布するのがよい。サーバーには載せてはいけない。徳島大学では専門部署はないが、eラーニングサポート室で相談に乗る(金西)

質疑応答

- 基礎科目でもディスカッションは出来るのか？
 - 十分に可能である。(古澤)
 - 可能である。自己紹介的なものだけ最初に配慮すれば、十分できる(大倉)

質疑応答

• 反転授業の効果は？

- 知識・理解は小テスト、応用や問題解決能力はBb9の投稿などで評価。効果は、このような成績でも出るかもしれないが、学生アンケートが重要ではないか。学生が身についたと本当に思っているかを確認する(古澤)
- 実習そのものの(手を動かす)時間が増えたのは効果である。学生にとっての効果は、十分に測り切れていないところがある。もともと食いつきがいい学生は、反転をやるとさらに向上。モチベーションが低い学生を拾い上げることはまだ出来ていない。学生の二極化。差が出てきた。(芥川)
- 小テストの結果で効果は分かるが、成績には反映させていない。あとは期末試験で測るしかないが、今のところはっきりとはわかっていない。(大倉)
- グループワークでの発言が増えた。今後の実習でさらに効果が見えるかも。(南川)
- 一般的には学生の時間外学修時間が増える。かなりの学生が事前学習をする。(金西)

質疑応答

- 反転授業は学生に対する負担がある。担当授業だけでなく、他科目との調整はどうされているか？
 - 各学部にカリキュラムマップがあり、科目の前後関係が明らか。全学プログラム委員会で各科目でどんな授業をしているかを把握し、調整している。(古澤)
 - 個人では調整はしていない。幸か不幸か、導入している科目が少ないので、我が道を行くパターン。(芥川)
 - 個人的にはそれほど負担とは思っていないので、未調整。今後は調整が必要かもしれない。(大倉)
 - 看護はまさにそれが問題。グループワークやまとめのレポートが6月や11月など、終盤に重なる。今後調整が必要。(南川)

質疑応答

- 時間外学修時間は何時間必要？
 - 合計24時間を超えないように調整する。しかし、学生アンケートを取ると実際は……。自分の将来を意識して主体的に学ぶ学生が少ない現状がある。(古澤)